ふしみ
子ども新聞
2022年
10月号
【むかいじま版】
発行
inote+P
(あいのてぷらすぴー)
伏見区 区民活動 支援事業

葦(よし)ってなぁに？

ツバメと私たちの環境を守ってくれているすごい植物

9月25日「向島駅前わいわい元気バザール」で子ども新聞のワークショップを行いました。参加した子供たちは、子供記者となって、出店者さんたちを取材しました。今回は、京エコロジーセンターとコラボ企画として、ゴミ問題についての説明を聞いた後、出店者さんに、ゴミを少なくするために行っていることを取材しました。

宇治川の葦(よし)を活用した雑貨を販売しているお店を、取材しました。

葦(よし)と言うものを、初めて見たので「葦(よし)ってなんですか?」と質問しました。

葦(よし)っていうのは高さが4メートルにもなる植物で、もともとは緑色をしているけど、枯れると茶色に色が変わる植物だと教えてもらいました。すだれは葦(よし)で出来ていると言っていました。

葦(よし)は、ツバメのねぐらで、ツバメは巣立つと、その後は葦(よし)で眠るそうです。葦(よし)の種類は、大きく分けると2種類あって、琵琶湖の周りに多いのは水葦(みずよし)、陸に生えているのは陸葦(りくよし)と言うそうです。

「どうしてストローにしようと思ったんですか?」と質問すると、葦(よし)を刈り取っても、それを使う人がいなかったら処分するしかないけど、葦(よし)が利用できることを知ってもらうことで、葦(よし)の価値を広めることができると思ったからです　と教えてもらいました。ツバメがねぐらにするためには、葦(よし)を良い状態に保たないといけないのです。そのためには、刈り取って管理する事が必要なんです。と教わりました。

使い捨てのストローや使い捨てのお箸の葦(よし)を活用することで、処分される葦(よし)を減らす事になり、ツバメのねぐらも守る事が出来て、環境を守ることにつながると思いました。(小学4年生)

手づくり小物雑貨屋さんを取材しました。

「ゴミを減らすための活動や工夫はされていますか?」と質問すると、「ジャガイモやニンジンの皮の間に、栄養がたくさん詰まっているので、野菜はきれいに洗って皮ごと料理するようにしています。皮ごと料理することで、少しでもゴミが出ないようにしています。」と言っていました。

小物や雑貨の作品を作るときは、できるだけ端切れを残さないようにしています。小さな端切れもパッチワークなどに使ったりしています。

普通だったらそのまま捨ててしまうけど、いろいろな工夫をされていてすごいなぁと思いました。(小学6年生)

ゴミにしない工夫
あまった野菜はお茶にする！

イルチエロさんを取材しました。

「ゴミを減らす活動で、されている事はありますか?」と質問すると、「余った野菜を乾燥させてお茶にしています。」と言っていました。「パンを膨らませるにはどうしていますか」と質問すると、「天然酵母を使ってパンを発酵させて膨らませています。」と言っていました。

余った野菜をお茶にする事が出来るって知らなかった。

発酵させるとどうしてパンが膨らむのか不思議に思いました。(小学6年生)

僕は、中嶋農園さんを取材しました。

「どうしてお野菜を売っているんですか?」と聞くと、「ここでとれた新鮮なお野菜を地元の人に食べてもらいたいから。このキュウリみたいに、新しいきゅうりには、花が咲いているんだよ」と教えてもらいました。

僕は、全部のキュウリにお花がついていたらいいなぁと思いました。だって、新鮮なまま生で食べてもおいしいし。(園児5歳)

野菜作りから学ぶ
食べ物のありがたさ

宮本ファームさんを取材しました。

ゴミを減らす活動や工夫は、「使い回せるものは使い回すようにしている」言っていました。また、「包装紙を要りませんと断ったりしています。」と言っていました。

「野菜作りに注意している事はなんですか?」と聞きました。「野菜にあまり関係のない雑草や葉っぱを切ったりしてきれいに育つようにしています」と言っていました。

私は、お話を聞いて、ゴミを減らす工夫を自分もやってみようと思いました。例えば、コンビニのプラスチックのスプーンは家で食べるときには、家のスプーンがあるから断ろうと思いました。

きれいな野菜を作るために、朝早く起きて畑仕事をしてはることを考えると、大変だなぁと思いました。食べる時に、野菜を作ってくれた人に感謝しようと思いました。(小学4年生)

あら？不思議！消える生ごみ

コンポスト作りをしている人を取材しました。

コンポストって聞いたありませんでした。コンポスト作りをしている人に、土の中に生ごみを入れてかき混ぜたら、生ごみが消えてしまうと聞きました。なんで消えてしまうのかというと「菌」が生ごみを分解してしまうと言っていました。「菌」って不思議やなぁと思いました。（小学６年生）

【コンポストとは】

堆肥作りの事です。家庭からでる生ごみや落ち葉、などの有機物を、微生物の働きを活用して発酵・分解させ、昔から伝承されてきた日本の大切な知恵のひとつです。コンポストを使うと生ごみを減らし、ごみを処分する手間や費用が減ります。自分の暮らしが環境保護への大きな第一歩となります。

段ボールコンポストにご興味のある方は→Facebook「ドゥーユーキョウト?コンポスト普及の会」を検索

初めての段ボールコンポスト

ベランダから始めるエコな生活

段ボールコンポストを普及している「ドゥーユーキョウト?コンポスト普及の会」の代表者を取材しました。

▽「段ボールコンポストに興味を持った理由は何ですか?」

▼「休耕田の一部を借りて野菜を作っていたところ、出来るだけお金をかけずに、良い野菜を作る事を模索していました。段ボールコンポストの活用が、家庭のゴミを減らし、環境への取り組みに参加できる事を知り、すぐにチャレンジしてみました。」

▽「段ボールコンポストのメリットとデメリットを教えて下さい」

▼「一番大きなメリットは、ゴミを減らすこと。次に園芸用の土や堆肥を購入しなくても良いところです。デメリットは、ほぼ毎日かき混ぜる必要があるのと、土いじりが苦手な人には、不向きな可能性がある事ですね」

▽「どんな所をおもしろく感じますか?」

▼「私にとって段ボールコンポストは、ペット的な存在です。生ごみを投入して2週間程で、ホカホカと湯気が上がり「生きている」と実感しました。毎日、温度計を見るのが楽しみになりました。」

余談雑談

今回の子ども新聞ワークショップの取り組みに10名の子ども達が参加してくれた。

最初に、ブースへ来てくれた子ども達へ、ゴミの分別の話をした。次に、燃やさないゴミや燃やすゴミが、灰になった後どうなる?と、質問すると「え?再利用される?」「金属だけをとって再利用する」と答える子ども達がいた。再利用できなくなったゴミは、埋め立てられる。ゴミを埋め立てる場所には限りがある事を伝えると「あ!知ってる!学校で習った」と話してくれた。

この事から、子ども達は、学校で、ゴミの問題についてを学び、知っていると実感した。同じく、私たち大人もゴミ問題について、ニュースや新聞などで、一度は目にした事があって知っているはず。

しかし、ゴミ問題を、自分に関わる事と強く感じている人は少ない気がする。ちょっとした気づき、出来る事からやってみる事が大切。

私は最近、ゴミを減らす事は、ダイエットにもなり、お金の節約になると思い、取り組んでいる。

ファーストフードをテイクアウトすると、ゴミはいっぱいになり、カロリーは高い、お金も使う。自宅でお弁当を作って出かけると、ゴミもほとんど出ないし、ダイエットにもなり、お金も使わなくてもいい。ゴミ削減は、健康と節約にもなり一石三鳥だ!

探検子ども記者!新聞作りワークショップ開催!

町や人を取材しよう！取材を通して感じた事が記事になります。

１２月１７日(土)13:00～１５:00（場所未定）
１２月２６日（月）13:00～１５:00
１月６日（金）13:00～１５:00
参加費５００円 / 定員7組

場所：京都文教サテライトキャンパス伏見大手筋
京都府京都市伏見区東大手町756　桃山SKビル2階
（京阪電車伏見桃山駅徒歩5分／近鉄電車桃山御陵前徒歩7分）
主催：inote+P(ふしみ子ども新聞教室)
お問合せ・申し込みはこちらの公式LINEから→

⚠
パパイヤあります
知ってるけど知らない食べ物
INOTE_PLUS_P
（あいのてぷらすぴー）
ダイレクトメッセージから
注文ください